



春日小だより

令和7年11月28日
練馬区立春日小学校
校長 後藤 京子
学校通信12月号

笑顔のために

校長 後藤 京子

早いもので、週明けから師走です。「令和」になってから、7年が終わろうとしています。

先日の音楽会には、多くの保護者、地域の皆様にお越しいただき、ありがとうございました。11月に入ってから、時折、廊下からきれいな歌声（本来は鼻歌なのですが）が聴こえてくるので、思わず、くすっと笑ってしまったのは私だけではなかったと思います。学年の気持ちをひとつに、体育館中に響き渡った歌声、初めて挑戦した楽器の音色、指揮を見ながら一体化した合奏、どれも感動を呼ぶ演奏ばかりでした。インフルエンザによる学年、学級閉鎖が続く中、本番を迎えることになり、参加ができないお子さんもいたと思いますが、練習を通して学んだことはたくさんあるはずです。今後の学校生活や学習に生かしていけることを願います。

さて、少し前の話ですが、今年のノーベル賞では、2人の日本人研究者が受賞されました。そのうちのお一人、北川進先生は、目に見えない分子の世界で空間をデザインするという革新的な研究をしています。記者会見で「子どもたちにメッセージを」と問われた際、フランスの細菌学者ルイ・パスツールの名言、「幸福は準備された心のみに宿る」を紹介していました。「良い先生、良い友達、いろいろな経験を大切にしていくことで、将来の花が開く」とおっしゃっています。偶然のように見える人との出会いも、実は、準備された心が引き寄せたものだとということであり、科学や研究の世界だけでなく、勉強や日々の努力にも通じる言葉です。例えば、テストで良い点数が取れたとき、たまたま似た問題が出たときに、「運がよかった」と感じるかもしれません。それは、単なる運ではなく、これまでにコツコツと積み重ねてきた努力の結果であるということです。日々の学びや復習、そして前向きに続けてきた姿勢こそが、「準備された心」をつくり、チャンスが訪れたときにしっかりとつかむための力となるのです。また、準備とは、知識や技術だけではなく、うまくいかない時にどう考えるか、その心の持ち方も大切な準備の一つです。勉強の成果がすぐに出なくても、北川先生のような研究者たちは、数えきれないほどの失敗を乗り越えながらあきらめずに前を向き続けました。だからこそ、世界に認められる成果を捕まえられたのだと思います。また、好きなことがあれば、スポーツでも、芸術でも、突き詰めるという経験値が前向きになります。だから、やる気をそがないことが重要です。本校の子どもたちが行っている探究学習は、その学びにつながっていくかもしれません。

この青空は きっと続いてる 遠い街で誰かが 見上げる星空に

あなたの夢はきっと続いてる 遠い国の野原で 輝く虹に

あなたの毎日が 世界を創り 愛する想いが 地球へと広がる

私は祈る 明日のためにまだ見ぬ あなたの笑顔のために

ミマス 「地球星歌～笑顔のために」より

